



開倫ユネスコ協会
NewsLetter

第109号

足利市堀込町145 Tel 0284-72-5915
発行者 林 明夫 2016年10月25日

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO)

栃木県ユネスコ連絡協議会 会員研修会の報告

2016年10月9日（日）、栃木市役所会議室において研修会が開催されました。栃木県内の7つのユネスコ協会から約40名が集い、10時に開会し、県ユ連の神林会長及び主管ユネスコの大木洋三会長（栃木ユネスコ協会）のご挨拶がありました。続いて、7つの各ユネスコ協会から活動報告がありました。ユネスコ学校の開催、絵画展や写真展の開催、また世界寺子屋運動へ協力、青少年育成のためのドッジボール大会の開催など多くのイベントを開催しています。

次に「栃木と歌麿」の講演を栃木ユネスコ協会 大木会長よりお聞きしました。喜多川歌麿は江戸時代の浮世絵師ですが、近年、栃木市ゆかりの旧家から歌麿の肉筆画「女達磨図」「鍾馗図」「三福神の相撲図」が発見され評判になりました。栃木は江戸時代、京都から日光東照宮への奉幣使が毎年通る宿場町として、また江戸へ通じる巴波川の舟運の要所として栄えました。江戸と交流のあった栃木は、文化の面でもその影響を受けて狂歌文化が花開き、筆綾丸の狂歌名を持つ歌麿は、豪商と狂歌を通じて交流を持ちました。歌麿の浮世絵版画には、栃木の狂歌師の狂歌が入ったものはいくつか見受けられます。歌麿は、通用亭徳成と親しく、その叔父の善野伊兵衛（初代釜伊）の依頼で、「深川の雪」・「品川の月」・「吉原の花」を描いたと伝えられています。

午後は、それらの高精細複製画の見学、とちぎ蔵の街美術館で「女達磨図」「鍾馗図」「三福神の相撲図」を見学し、また山車会館などにも立ち寄り、蔵の街とちぎを散策しました。



栃木ユネスコ協会 大木会長



研修会場



見学の様子



日光ユネスコ協会 神林会長



佐野ユネスコ協会



足利ユネスコ協会



大田原ユネスコ協会



宇都宮ユネスコ協会



栃木ユネスコ協会



日光ユネスコ協会

日光ユネスコ協会

2016 年度世界遺産環境モニタリングの報告

2016年10月20日(木)、日光ユネスコ協会が主催する「世界遺産環境モニタリング」が実施されました。環境省より依頼され、日光市の文化財課と一緒に毎年行っています。

「日光の社寺」が世界遺産に登録されて以来、毎年この調査は続けられていて、一年に3回実施されています。今回、調査員が5つの班に分かれ、NOx(窒素酸化物)数値を調べるために、カプセルを約30箇所に設置します。設置後約24時間経過したのちに、回収してそれらのカプセルの中身を調べます。

日光ユネスコ協会神林会長と同高田事務局長、開倫ユネスコ協会高尾事務局長と同事務局の後閑の4名がA班として設置に歩きました。

まず、集合場所の市営駐車場の樹木にカプセルを設置しました。設置の様子が下の写真(上段右)です。日光ユネスコ協会の高田事務局長が慣れている様子で取り付けます。カプセルのふたを開けて、口が上に向いてしまうと雨の影響を受けるため、口を下向きに設置します。

東照宮へ移動し五重の塔付近にカプセルを設置しました。下の写真(下段左)の場所です。続いて陽明門入り口にある「鐘楼」にカプセル設置、看板の足に取り付けました。さらに「眠り猫」をくぐって奥宮の御宝塔わきの看板足に取り付けました。最後は、東照宮入り口わきの「御仮殿」にカプセルを設置して本日の設置終了となりました。日光ユネスコ協会の声かけで、この世界遺産環境モニタリング調査には、高校生ボランティアもたくさん参加するそうです。特に7月～8月の期間は夏休みなので参加率がいいそうです。多くの方のご理解とご協力があってこの世界遺産環境モニタリング調査が実施されています。



東照宮入り口



記録用紙とカプセル



カプセルの取り付け(市営駐車場)



(右)日光ユネスコ協会神林会長
東照宮五重の塔付近に設置



東照宮鐘楼に設置



(右)日光ユネスコ協会高田事務局長
東照宮奥宮御宝塔に設置